

平成20年度第5回行財政改革審議会会議録

日 時

平成20年9月26日(金)午後2時～午後4時

場 所

流山市役所第2庁舎3階 306会議室

出席委員

浅井委員(会長)、小口委員(副会長)、白須賀委員、大内委員、
小嶋委員、横山委員、杉浦委員、井上委員、岩下委員、加藤委員、
鎌田委員、後藤委員

傍 聴 者

なし

欠席委員

井原委員、清水委員、洞下委員

事 務 局

増田行政改革推進課長補佐、染谷主査、秋元副主査

議 事 内 容

別添議事録のとおり

議 題

- ・新行財政改革実行プランの進捗状況について
- ・行政評価の外部評価について

議事録(概要)

(会長)

開会宣言

本日は、「新行財政改革実行プランの進捗状況について」及び「行政評価の外部評価について」の答申案の採択について議題とする。まず、答申書最終案として取りまとめるまでの経過及び答申書の構成について説明したい。

新行財政改革実行プランの平成19年度進捗状況に関する答申書では、A班から提出された意見を中間報告として取りまとめ、それに対して各委員から意見を伺い、正副会長及び9月18日のグループリーダー会議で最終的な調整を実施し、最終案をまとめた。

また、答申書の構成は、実施目標の数値化や記載方法などの実行プランの全体に関する意見等を「総論」とし、個別の改革項目に関する意見等を「各論」として整理を行なった。

行政評価制度の外部評価に関する答申書では、実行プランと同様に、B班・C班それぞれからいただいた意見を中間報告として取りまとめ、それに対して各委員から意見を伺い、正副会長及びグループリーダー会議で最終的な調整を実施し、最終案としてまとめた。

答申書の構成は、成果指標や評価表などの記入に関する意見等を「総論」とし、外部評価の対象施策10項目に関する意見等を「各論」、政策・施策に対する要望等を「附帯意見」として整理を行なった。

それぞれの最終案については、9月19日付けで委員各位に送付し、ご意見がある方は24日(水)正午までに、事務局までお知らせくださるようお願いしていたところである。

それでは、以上を踏まえて、早速議事に入りたい。

まず、「新行財政改革実行プランの平成19年度進捗状況について」の答申案の採択についてだが、最終案に対する各委員からの意見及び最終案の内容について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

最終案に対して委員から提出された意見はなかった。

(会長)

この場で、意見があれば伺いたい。

(委員)

答申案2ページの「1.総論」の(9)についてだが、抽象的なもので内容も当然のことを記載されている。このまま答申に入れる必要があるかについて、この場で再検討されたい。

(会長)

(9)について、削除するか、残すか、修正するかについて意見を求めたい。

(委員)

全て削除するのではなく、括弧をはずし、総論の結びとして残すのはどうか。

(委員)

全て削除は避けたい。

(委員)

「行政委員会や水道局も含めた」ではなく、「全庁的な」といった表現に修正してはどうか。

(委員)

「全庁的な」に表現を修正し、答申の前文の結びとして残すのが適切かとおもうかがいかか。

(会長)

では、(9)は「行政委員会や水道局も含めた」ではなく、「全庁的な」に修正し、前文のまとめ部分に位置づけることについて、採決したい。

【全員「異議なし」】

(会長)

他に修正意見があれば伺いたい。

【意見なし】

(会長)

それでは、これより採決を行なうが、只今の意見を反映させた、原案のとおり、決定することに賛成の委員の挙手を求めます。

【全員挙手】

(会長)

全員一致ですので、原案のとおり決定する。

それでは、次に「行政評価制度の外部評価について」答申案の採択について議事を進めたい。

最終案に対する各委員からの意見及び最終案の内容について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

最終案に対して委員から提出された意見はなかった。

(会長)

それでは、ここで最終案に対し、意見のある方はいらっしゃいますか。

(委員)

答申案7ページ4 - 1「安心して子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり」の附帯意見としての にある「税金を考えるならば、市内事業者や団体を」といった内容があるが、意図は何か。

(委員)

市内の事業所と団体の育成が地域の活性化につながると考えたからである。

(委員)

競争原理でのコストダウンを重視しがちだが、地域密着型サービスが重要と判断する。

(委員)

子育てに限らずに、都内をはじめとする市外事業所より市内事業所への配慮ということになるのか。行財政改革審議会という立場では、競争原理の導入と推進を図るように提言するのが一般的であり、市内事業所への優遇といった附帯意見を答申に入れることに疑問を感じる。

(委員)

商業に関する施策で、「地域密着型の商業活性化」があるのだから、そちらに入れたらどうか。

(委員)

4 - 1は子育て環境に関する施策である。市民の立場では、子どもを安心して預けられて満足いくサービスを受けられれば、市内だろうが市外だろうが関係ない。事業所運営の立場で考えると「市内を優遇」という表現が出てくるのではないだろうか。

(委員)

全ての分野ではなく、特に福祉や教育に関する分野においては、地域密着型のサービスが重要だと考える。例えば大手介護サービス事業者から来るスタッフは、毎回違う状況だったりする。地元の知っている人によるサービスが安心につながるという理由からこういう表現となった。

(委員)

大手企業が安心できないとは限らない。とらえ方の問題である。

(委員)

地域の特性を理解したサービスを提供してくれるならば、市内、市外は問わないのではないか。

(委員)

子育てに関する施策に対して「税金」「市内事業者優遇」はふさわしくない。

(委員)

都内の事業所に委託が偏り、市内事業者が後退していくことは忍びない。

(委員)

施策5-1の商業の分野に、市内事業所育成を附帯意見として入れるのはどうか。

(委員)

商業、工業全ての産業において「市内事業者優遇」という考えではない。

(会長)

行財政改革審議会ではなく、他の審議会や政策提言機関が提言する内容ではないだろうか。

(委員)

実行プランの答申の中で、アウトソーシングの推進の項目で市内事業所について盛り込むことではどうか。

(委員)

外部評価の部会での附帯意見を採択済みの実行プランの答申には、入れるべきではない。

(委員)

行政改革を進めて無駄をなくすことを推進する観点で答申するのが、当審議会の役割であり、諮問に沿わない。

(委員)

「市内事業者育成を配慮するように」といった内容は当審議会のキャパシティを超えている。また、サービスが良ければ、市内にこだわることはないので、「税収を考えるならば…」以降は削除したい。

(委員)

答申に対する諮問であるため、事業所の選出にまで踏み込むのに疑問を感じるので、やはり削除してはどうか。

(委員)

子育て、教育分野は他の分野と違って顔のわかる人にケアしてもらいたいという強い思いから、附帯意見に入れた経緯だが、答申の趣旨やバランスを判断したうえで、省くのであればかまわない。

(会長)

他に意見があれば伺いたい。

(委員)

3ページ1 - 8「利便性と快適性を重視した公共交通の整備充実」の についてだが、つくばエクスプレスの整備については達成しており、現在は乗客数の推移を見守るに過ぎない。個別施策自体を削除するのが妥当ではないか。

(事務局)

10年前前期基本計画を策定する頃は、つくばエクスプレスの整備が大命題であったため、個別施策として設定した。開通された現在では、「個別施策の名称の見直しをしたらどうか」という観点で各論にとして設けたものである。

(委員)

開業してしまったということもあり、残しても来年以降も同じ評価になるのではないのか。そうであれば削除が妥当ではないか。

(委員)

個別施策の中に「東京駅までの延伸」という内容がある。こういった将来形を描いているのであれば、削除しないで改良されたほうが良い。

(委員)

東京への延伸に流山市はどう関与しているのか。

(事務局)

流山市は新都市鉄道へ出資している。延伸について要望を行なっている。

(会長)

それでは、削除はしないで修正をして残すこととする。

(委員)

「つくばエクスプレスの整備については、現在目標をほとんど達成しているので、東京駅延伸を見据えた個別施策の見直しが必要である。」ではどうか。

(会長)

これまでの意見を整理されていると思われる。

それでは、意見も出揃ったようですので、これより、採決いたします。

只今の修正意見を反映させた、案のとおり決定することに賛成の委員の挙手を求めます。

【全員挙手】

(会長)

全員一致ですので、案のとおり決定する。ありがとうございました。

それでは、市長への答申ですが、9月30日(火)午前11時から、市長室で提出いたします。私と副会長が出席いたしますが、時間の都合のつく委員には、是非、同席をお願いします。

次回の審議会の開催について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

第6回の審議会は、12月5日(金)午後3時30分からの開催としたい。

(会長)

次回の議題は、「新行財政改革実行プラン平成20年度前期進捗状況について」とする。それでは、以上をもちまして、第5回行財政改革審議会を終了いたします。

以上

平成20年9月26日

流山市行財政改革審議会

会長 浅井 昌之